

## アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

### 1. 提案事業概要

【事業名】	アジア分析化学ネットワークの形成
【提案者氏名、役職、機関・部署名】(日本語)	渡會 仁、教授、大阪大学・大学院理学研究科化学専攻 (2008年度 日本分析化学会会長)
【事業形態】*	(1) 国際集会の開催 (2) 研究者の派遣・受入れ
【実施期間】†	2009年 8月 10日～ 2009年 8月 13日 (4日間、クアラルンプール) 2009年 9月 24日～ 2009年 9月 26日 (3日間、北海道)
【実施場所】†	マレーシア (クアラルンプール)、および日本 (札幌)
【参加国・地域】†	中国、韓国、台湾、マレーシア、ベトナム、フィリピン、インドネシア等 15ヶ国
【事業概要】	<p>この事業は、日本学術振興会と共催で、日本が主導してアジア 15ヶ国の主要な大学・研究機関の研究者を繋ぐ新たな分析化学ネットワーク Asian Analytical Chemistry Network (AACN) を創設するものである。具体的には、日本分析化学会が1991年に発案し、2年毎にアジアの数か国の参加で開催されているアジア分析科学国際会議 ASIAN CONFERENCE ON ANALYTICAL SCIENCES (ASIANALYSIS) を足掛かりとして、参加国を15ヶ国に拡大した全アジア分析化学ネットワークを構築する。すなわち、①今夏8月にマレーシアで開催される第10回の ASIANALYSIS X において、本ネットワークの形成を国際諮問委員会に提案し、その議論のための国際 workshop を ASIANALYSIS X において開催し、その討議に基づいて ASIANALYSIS に AACN 国際委員会を組織する。②AACN 国際委員会と協力して英語版の web データベースを日本分析化学会のサーバーに開設する。そして、③日本分析化学会の主催する9月の札幌年会において、第一回の AAC Network に関する Symposium “Today and Future of Asian Analytical Chemistry” を、これまで ASIANALYSIS に参加していないベトナム、インドネシアなどを加え約10名のアジアのキーパーソンを招いて開催し、各国の分析化学の教育・研究体制について理解を深め、本ネットワークの継続的運営体制を確立する。本ネットワークには、アジア 15ヶ国から当面約1000名の登録者を募り、そのデータベース (英語版) を日本分析化学会のサーバーにて管理し、アクセスを認可された者がその情報を自由に利用できるようにする。そして、人的交流や産業の振興に相互に利用し、アジアの分析科学に係る教育・研究・技術・産業の振興に貢献する。データベースの整備および Workshop や Symposium の開催活動を継続的に行うために、ASIANALYSIS、日本分析化学会および日本分析機器工業会の協力を得る予定である。</p>